



## リバーフロント整備センター設立五周年を迎えて

理事長 寺田斐夫

リバーフロント整備センターは、水辺空間のあり方、水辺空間の整備等水辺空間に関する調査研究を総合的に実施し、その成果を幅広く社会に活用して、安全で豊かな潤いのある国土の建設に資することを目的として昭和62年9月1日に設立され、はや五周年を迎えました。

この間、水辺空間に関する調査研究の本来業務につきましては、建設省当局の強力なご指導と地方公共団体等の暖かいご支援をいただき順調に進んでおりますし、また、センターの組織や実施体制等につきましても、各界の多くの団体の方々から多大のご支援・ご協力をいただき充実を図ることができました。

これらのことは、センターの設立以来から賜りました関係各位のご尽力はもとより、うるおいのある美しい水系環境の保全と創造に対する要請が、如何に強いものであるかということの表れであろうと思われまふ。この機会をお借りいたしまして、関係各位のご厚情に厚くお礼申し上げます次第です。

センターが設立された昭和62年は、建設省では同年度を初年度とする第7次治水事業五箇年計画において、三つの柱の一つに“うるおいとふれあいのある水辺環境の形成”を位置付け、「高規格堤防整備事業」、「ふるさとの川モデル事業」及び「マイタウン・マイリバー整備事業」等を創設し事業がスタートしました。

当センターは、以上のうるおいとふれあいのある水辺空間整備を円滑そして効果的な事業展開を進めるうえで地方自治体等の要請に応える整備計画策定の技術的協力、水辺空間に関する技術的課題への調査研究等の役割をにない企画立案、調査研究、広報・普及啓発の三つの機能を発揮してきました。

現在取り組んでいる主なものは、企画立案では、水辺空間に関する資料はゼロからスタートしたこともあり、水辺空間整備についての海外や国内の事例調査で、特に海外の水辺空間整備の実情を把握するため毎年視察団を派遣し、平成4年度も自然豊かな川づくりが実施されているアメリ

カ・カナダに派遣する計画であり、また、人と自然にやさしい川づくりの推進と当センターの五周年記念として「人と自然にやさしい川づくり大賞」を設け表彰することとし、この7月15日に応募を締め切らせていただき、現在審査中です。水辺空間の基本的な事項でもあるリバーフロントの整備と保全、水辺空間整備とまちづくり等も取り組んでおります。

調査研究では、高規格堤防は基本的な枠組みが整理され、今後は沿川のまちづくり構想と都市整備の事業誘導方策等都市との関連する課題、河川が本来有している生物の良好な生育環境に配慮する等多自然型川づくりは多くの課題があり、鋭意研究を進めています。まちづくりと一体となって川づくりを行う水辺空間整備計画策定は、河川、都市、景観、生態等広い分野にまたがるものが多くそして地域の意見・ニーズと特性をできるだけ生かし、計画に反映させるため、計画地域毎に学識者、地元有識者、国・県・市町村の職員で構成された検討委員会を設置し、指導・助言を得ながら進めてきました。したがって、市町村の職員の方々と一緒になって水辺計画づくりや河川、都市計画、景観、生態、環境、歴史文化等の専門とする学識者は400名を越える多数の方々の協力をいただきました。

広報・普及啓発では、「多自然型川づくり」等のシンポジウム開催や水辺の文化誌「FRONT」、機関誌「RIVER FRONT」、研究成果として「ふるさとの川をつくる」や「リバーフロント研究所報告」等の出版物の刊行、パンフレットの作成等を実施しています。

当センターとしては、水辺は豊かな自然を育み、心をなごませるとともに周囲の自然や町並み、人々の暮らしと一体となって、その地域の文化・風土の形成に大きな役割を果たしてきたことを踏まえ、建設省の水辺に関する施策に呼応しつつ、多くの関係機関からの期待に応えるため、目的に向かって専心努力してまいりたいと存じておりますので、今後とも一層のご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。